

ほんわ館だより

令和8年7月発行
第166号

中山町立図書館
開館 9:00~19:00
休館日 7/6.13.21.27

7月の展示コーナー

★おすすめコーナー
『防災・減災』

★2階掲示板
『謎解きミステリーの本』

★児童書コーナー

- ・絵本コーナー 『空を見上げて』
『いきものがいっぱい』
- ・円形コーナー 『クイズの本』
- ・空中図書コーナー 『きょうりゅう』
- ・小学生おすすめコーナー 『自由研究①』

★今月のおはなし会★

7月18日(土)11:00~11:30
場所:ほんわ館多目的室

課題図書、そろっています!!

今年も読書感想文の時期がやってきました。展示コーナーを設けていますので、自由研究と併せてご利用ください。

7月26日(日)『夕涼み浴衣で図書館~怪談ナイト~』を開催します!!

黒木あるじ氏による怪談会

不思議で怪しいエピソード
あなたも持っていませんか?

ワークショップ

きらきらゆらゆら
クラゲ風鈴を作ろう!!

♪浴衣の着付けのお手伝いをします。
浴衣小物をご持参ください



お知らせ

『ほんわ館からの脱出3』を開催します
開催日:8月1日(土)~8月9日(日)
※8月3日(月)は休館日です
たくさんのご参加をお待ちしています

詳しい時間・内容につきましては館内ポスターやチラシ、ほんわ館ホームページをご覧ください

新着 最近入った本を紹介します

※ここに紹介した他にもたくさん入っています

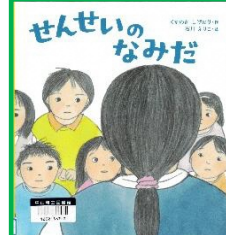
【児童書(えほん)】



◀『かぶとむしがにげた!』
たしろ ちさと // さく
福音館書店



◀『ぼくたちのいえ』
藤原 ヒロコ // 作・絵
文研出版



◀『せんせいのなみだ』
くすのきしげのり // 作
石川 えりこ // 絵
佼成出版社

【文芸書】書名	編著者名	【児童書】書名	編著者名
燻る骨の香り	千早 茜 // 著	自分でつくる! なぞ解き	やまみん // 監修
石刻師リョウ	雲井 耕 // 著	No.6 再会 #3	あさの あつこ // 著
私たちが刈り取った男たち	ジェスミン・ウォード // 著	スマホを持たない君へ	清水 晴木 // 著
ぼけていく私	佐藤 愛子 // 著	大噴火のサバイバル	洪在徹 // 原案
私たちはたしかに光ってたんだ	金子 玲介 // 著	いいたいことがあります!	工藤 純子 // 著
あなたが正しくいられたとき	芦沢 央 // 著	【教養書】書名	編著者名
柩の狩人	大沢 在昌 // 著	日本一わかりやすいデジタル終活	末吉 謙佑 // 著
多類婚姻譚	凧良 ゆう // 著	血肉となる読書	安田 登 // 著
圓朝(上・下) [大活字本]	奥山 景布子 // 著	こわい日本史	本郷 和人 // 著
ファイア・ドーム(上・下)	辻村 深月 // 著	へんな学部	西岡 壺誠 // 著
年とる力	阿川 佐和子 // 著	サッカー日本代表アタッカー一動作解析図鑑	三浦 哲哉 // 著
大江戸フューチャーズ	稲葉 大樹 // 著	読むと一瞬で体が変わるすごい本	奥中 伸 // 著
モナリザの裏側	一色 さゆり // 著	精神科医おどおど日記	駒木 爽 // 著
めぐる糸	永井 紗耶子 // 著	わたしはこれでやせました	MEGUMI // 著



本の歳時記



—閉架書庫の再発見本—

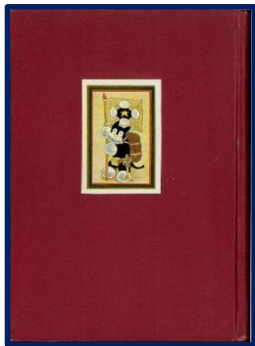
図書館では、皆さんに直接手に取っていただけるよう、できるだけ多くの本を棚に並べていますが、それでも入りきらない本は鍵のかかった「閉架書庫」でひっそりと出番を待っています。今月は、閉架書庫で眠っている本の中から、ちょっとした”発掘本”をご紹介します。



『裁判官の爆笑お言葉集』

『裁判官の爆笑お言葉集』（長嶺 超輝//著 幻冬舎）

「死刑はやむを得ないが、私としては、君には出来るだけ長く生きてもらいたい（死刑判決言い渡しの後で）。」 裁判官は淡々と無味乾燥な判決文を読み上げるもの…そんなイメージを覆す一冊です。この本には冒頭の言葉のような”肉声”が詰まっています。ときには諭し、ときには私情を抑えきれずに涙をこぼし……。法廷という舞台上、六法全書を脇に置いたその時に、裁判官は何を語るのでしょうか。

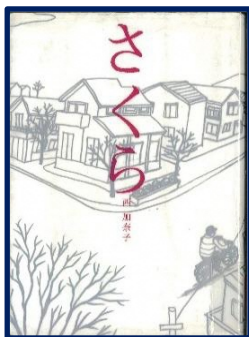


『のらくろ漫画全集全1巻』

『のらくろ漫画全集全1巻』（田川 水泡//著 講談社）

昭和6年の新年号から『少年倶楽部』に連載された『のらくろ』。子犬の時に捨てられた身寄りのないのら犬・のらくろが、軍隊に入って愉快地活躍する物語は、当時の子ども達を夢中にさせました。

この本は、発表された全作品を年代順にまとめ、昭和42年に刊行されたものです。さらに、小林秀雄や手塚治虫の寄稿も収められていることから、児童漫画史を語る上でも貴重な一冊といえるでしょう。



『さくら』

『さくら』（西 加奈子//著 小学館）

物語は、長谷川家の次男・薫が年末に実家に帰省するところから始まります。父と母、妹のミキ、今年十二歳になる犬のサクラ。何も変わっていないように見える家の中で、薫は四年前になくなった兄・一のことを思い出すのでした。薫とミキにとってカッコよくて頼もしくてヒーローだった兄。やがて平凡な日常は一変、そして奇蹟が訪れる…。

本作は映画化もされましたが、ほんわ館（閉架）でも最も読まれた人気作です。

ほんわ館で読まれています

『ドラゴン最強王図鑑』

（健部伸明//監修 なんばきび//イラスト 七海ルシア//イラスト 学研プラス）



ペルーダvsイルルヤンカシュ、ヒュドラーvsファーヴニル…。ドラゴンの敵はドラゴン！世界各地の神話や伝承に登場するさまざまなドラゴンたちが集結したトーナメント戦の様子をイラストで紹介

『燻る骨の香り』

（千早茜//著 集英社）



若き日の天才調香師・小川朔が出会ったのは、特別な嗅覚を持った調合師・丹穂。京都の香老舗の一族が秘めた嘘とは…。香りのサロンを開く前、20代の朔を描いた前日譚。

『おしら鬼秘譚』

（黒木あるじ//著 KADOKAWA）



仙台で働きながら娘と暮らす里帆は、古本市で「おしら鬼」と呼ばれる木彫りの像を手にする。その夜、娘が木像とともに失踪。里帆は娘の行方を追うため、学芸員らと「おしら鬼」の正体を探るが…。

『風を織る』

（あさのあつこ//著 実業之日本社）



深川の縫箔（刺繍）屋・丸仙の娘、おちえは、燃え盛る火車と牡丹模様の不吉な小袖を大店「出雲屋」の別邸に届ける。剣を捨てた職人・一居も同行するが、邸内で5人の男に襲撃され…。